

株式会社マルシメ



愛する地元の真ん中で、
未来へ向かい、共に育む

昭和25年、創業者である祖父が十文字町に酒類を中心とした小売店を開業後、スーパーモールラッキーを始めとした、地元になくはない企業に成長した株式会社マルシメ。25歳で3代目社長に就任した遠藤宗一郎氏は、若さ故の苦勞を乗り越えながら、店舗内の大規模な改装や近隣地域へのお買い物バスの運行等、次々と新規事業に着手した。地元を愛し、愛される企業として今、自分たちに何ができるのか。商品売るだけでなく、新しい挑戦を地域の中心から発信し続ける。

25歳で迎えた人生の転機

「本当は家業を継ぐ予定ではなかったんです」。
屈託なく笑う遠藤社長は若さの中にどこか不思議と貫禄を感じさせる。横手市十文字町で食品から衣料品、日用雑貨、家電、DIY用品まで幅広い商品を扱うスーパーモールラッキーを経営する株式会社マルシメの代表に就いたのは25歳の時。今から12年前のことだ。
「大学進学で東京に出て、卒業後に大手小売業に就職しました。面白そうだなと思った就職先がたまたま似たような業種でしたが、当時は地元に戻る気はありませんでした」。
きっかけは先代社長である父が急病で倒れたためだった。経営のことは何も分からなかったが、会社として早急に代表を立てなければならぬ。遠藤社長は周囲に促され、経営を引き継いだ。
「小売業の最先端の現場を経験していたので、何か生かせるのではないかと考えていましたが、現実はそんなに甘くなかつ

た。当たり前でしょうが、実績もない25歳の私が何を言っても、現場の従業員は誰も耳を傾けてくれません。いきなり帰ってきて何を言っているんだ、という感じだったんでしょうね」。
社員とのコミュニケーションもうまく取れず、IT化の進んでいない現場は何から手をつけていいか分からないほど遅れていた。それでも今まで自由にさせてもらった自分ができる恩返しは、会社のためにがんばることだと奮い立ち、自身のレベルアップから取り組んだ。専門書を読み漁って独学で経営手法を学び、県内外の経営者とのパイプ作りや他社の事例視察にも積極的に参加。しかし、現場の改善は思うように進まず、競合の台頭で業績は悪化の一途を辿った。
「経営者としてまずやるべき仕事は業績を立て直すことでした。資金繰りの過程で従業員のリストラを選択しましたが、一人ひとりと面談しているうちにその人や家族の人生を、机上の計画書で描いた数値だけで切り捨てていると感じました。会社への恩返しどころじゃない。一体自分は何をやっているんだと思いましたね」。

地域が発展してこそ、会社の成長がある

苦い経験から遠藤社長は、本当に地域に必要なものは何なのか、自社を成長させるためにできることはどんなことなのかと、常に自問するようになった。
「同じことをやっているだけでは企業の成長は絶対にありません。地域に支えられてきたマルシメが成長するためには、地域そのものの発展が不可欠なのです」。
お客様である地域住民に目を向けると様々な課題が浮かび上がった。2012年から始めたお買い物バスの運行もその解決のための一つの答えだ。人口減少による公共交通機関の縮小、不採算路線の廃止によって、特に買い物が困難となった地域や移動手段を持たない顧客層のため、県や市、地域団体と連携し、スーパーモールラッキーを起点とした無料シャトルバスの運行を開始した。1週間に1回、1路線から始まったこの取り組みは、今では平日5日間14路線の運行となり、住民にとってなくてはならない足に成長している。
また同時に、店内の大幅な改装にも着手。横手市周辺の約

300世帯の契約農家から直接買い付けを行う“ファーマーズマーケット”では消費者に新鮮で安全な食を、農家にとって販路の提供を行う地元の地産地消の中心となっている。また、店内に広がる Green Garden にはカフェを併設したフリースペースを設け、スーパーを利用する住民同士の憩いの場や地域イベント、伝統芸能等を披露する会場として利用できるようにした。
この他にも、栄養のバランスの取れた日々の食事を自宅に届ける宅配サービスや、家の片づけ、除雪、ハチの巣駆除といった日常生活の中で生じる困りごとを受け、専門性のある地元業者に取り次ぐ“お困りごと相談事業”もユニークでありながら、地元企業と住民について真摯に考え支える秀逸な仕組みと言える。
「困ったことがあるときは、お買い物のついでに相談してもらえればよいなど。日常生活の様々な事情に“ワンストップ”で解決できる場でありたいと願っています」。

共に育む“共育”
社員と共にもっと新しいチャレンジを!

改善した業績に安心して、遠藤社長が歩みを止めることはない。特に今は若い人材の育成に力を入れている。地域も社員も共に成長を育む“共育”の観点から、県外の展示会や研修等、社員に学ぶ機会を積極的に与えている。
「これからの歴史を紡ぐのは若い社員です。私たちに必要なのは現状維持ではなく、刺激と投資。暗い話題も多い毎日ですが、会社を通して希望のある未来を提供できればこんなに嬉しいことはない。社員にも変化をチャンスと捉え、失敗を恐れずどんどん新しいことに挑戦してほしいですね」。
課題が多いからこそできることがある。200名の社員とその家族、そしてお客様である地域住民たちと共に、マルシメはこれからも地域の新しい未来を育てていく。



1 月に1度の全体朝礼では各担当から様々な報告がある。この日はオフィシャルパートナーとして応援している秋田ノーザンハビネッツの話も。
2 Green Garden内カフェ。地元の人たちの憩いの場となっている。
3 地産地消がテーマのファーマーズマーケット。農家・消費者双方と良い関係を築く。
4 地域住民を支えるお買い物バス。利用者にとっては買い物だけでなく店の人との会話も楽しみの一つ。
表紙 若い世代からベテランまで多くの従業員が働くスーパーモールラッキー。

株式会社マルシメ
〒019-0505
秋田県横手市新井田字東22-1
TEL. 0182-42-2113
FAX. 0184-42-2281
http://sm-lucky.com

創業 / 1950年
●資本金 / 5,000万円
●従業員数 / 196名
●営業品目 / 食料品・衣料品・日用雑貨・住関連商品等の販売、飲食店の経営、冠婚葬祭・各種宴会等の会場運営、住宅の販売、自動車並びに自動車部品、付属品及び工具の販売

代表取締役社長
遠藤 宗一郎
えんどう そういちろう